

第10回千葉市学校教育推進計画懇話会議事録（要旨）

1 日 時：平成20年10月22日（水） 午後6時00分～午後7時30分

2 場 所：教育委員会第1・2会議室

3 出席者：（委員）

明石会長 高津副会長 相川委員 秋元委員 安達委員 伊藤委員
小川委員 神田委員 貞広委員 清水委員 杉森委員 高橋委員
田辺委員 鶴岡委員 戸村委員 行木委員 宮浦委員

（事務局）

教育長 教育総務部長 学校教育部長 生涯学習部長 教育総務部総務課長
教育総務部企画課長 学校財務課長 学事課長 教職員課長 指導課長 保健体育課長
教育センター所長 養護教育センター所長 生涯学習振興課長 社会体育課長
青少年課長 中央図書館長 学校施設課長 教育総務部企画課主幹 広報広聴班主
査 担当

4 議題等

（1）議事

ア 第9回懇話会の議事録の承認について

イ 学校教育推進計画（案）一答申案一について

（2）その他

5 議事等の概要

（1）第9回懇話会の議事録の承認について

全会一致で、議事録案が承認された。

（2）学校教育推進計画（案）について

事務局より、学校教育推進計画（案）について説明を行った。

（4）その他

- ・懇話会から教育長への答申の日程については、11月下旬を予定。後日連絡することで了承された。
- ・第10回の議事録について、各委員に内容を確認後、正副会長の承認をもって懇話会の承認とすることで了承された。

6 会議の経過 別紙のとおり

●小川課長補佐

皆様、大変ご苦勞様でございます。お忙しい中、ご出席を賜り、ありがとうございます。

時間になりましたので、ただ今より、第10回千葉市学校教育推進計画懇話会を開会します。私は、本日の進行をつとめさせていただきます、企画課の課長補佐の小川です。

本懇話会は、千葉市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、前回会議と同様、会議を公開いたします。

本日は、今泉委員、大里委員、鈴木委員の3名の委員におかれましては所用のため、ご欠席です。なお、伊藤委員におかれましては、少し御到着が遅れるとご連絡をいただいております。

それでは、お手元に配布してございます「会次第」に沿って、進めさせていただきます。はじめに資料を確認します。

会次第、座席表、議事1の資料として“第9回懇話会の議事録”、議事2の資料として“学校教育推進計画（案）—答申案—”です。

議事に先立ちまして、お集まりの皆様にご教育長より一言ご挨拶申し上げます。

●飯森教育長

教育長の飯森でございます。

本日は、大変ご多用の中、本懇話会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、日頃より、本市教育の進展に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

皆様方には、昨年8月に本懇話会を設置し、新しい時代を見据え、中・長期的な視点から本市の学校教育を総合的かつ計画的に推進していくための「千葉市学校教育推進計画」についてご提言いただくよう諮問いたしました。そして、4月には「千葉市学校教育推進計画のあり方」を内容とする中間報告をご提出いただきました。中間報告で示された「8つの施策展開の方向」は、どれも学校教育を充実・発展させていくために欠かすことのできない重要な視点であると認識しております。

7月1日には、国において「教育振興基本計画」が閣議決定され、これから計画の策定に取り組んでいくといった自治体もあるようです。しかしながら千葉市ではいち早く着手

し、既に9回にわたり委員の皆様による熱心なご審議を積み重ねていただき、「学校教育推進計画案」をまとめていただいております。本日が最終審議であると伺っております。そして、近く答申をご提出いただける運びとなりましたことにつきまして、皆様のご尽力に改めて敬意と感謝の意を表する次第であります。

全国学力テストにおきまして、学力向上委員会の名のもとに、教育委員会が尻を叩いて同じような問題を多く解かせたところもあるということも聞いておりますが、千葉市は一切そのようなことをおこなっておりません。その結果、全国平均、千葉県平均、政令市平均をはるかに超え、特に小学校などでは良好な成績を修めております。

もちろん、テストだけでは測れるものではありませんが、学力テストの結果が良かったことは、皆様のそれぞれの分野におけるご指導、ご協力や、学校現場での校長先生と教職員が一丸となった教育への取り組み、また、セーフティウォッチャーなど地域をあげて学校を支えてくださる地域の方々のおかげだと思います。

今後、皆様からいただきましたご提言をもとに、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりの更なる充実により、千葉市の学校で学ぶすべての子ども達が「千葉市で学んでよかった」と思える学校づくりを推進してまいります。

最後に、委員の皆様には、今後とも千葉市の教育の更なる充実のためにご支援・ご協力をお願いし、簡単ではございますがご挨拶といたします。

●小川課長補佐

ここで、飯森教育長ですが、このあと予定がありますので退席させていただきます。

それでは、このあとの議事の進行は、明石会長にお願いいたします。よろしくお願いたします。

●明石会長

明石でございます。

本日もよろしくお願いたします。

早速でございますが、議事に入らせていただきます。

まず、(1)の「第9回懇話会の議事録の承認について」を議題といたします。

前回、10月6日に行われました第9回会議の議事録をあらかじめ皆様にお配りして、既にご覧いただいていることと思っておりますが、いかがでしょうか。何かございましたらお願いたします。

特にないようでしたら、議事録につきましてご承認いただくことにご異議ございません

でしょうか。

<異議なし>

異議なしということですので、議事録は承認されました。

続きまして、「(2) 学校教育推進計画 (案)」についての協議を行います。事務局より資料の説明をお願いします。

●山下主幹

企画課の山下でございます

議事2につきまして、お手元に配布してございます「千葉市学校教育推進計画 (案)」をもとにご説明いたします。

表紙でございますように、今回の資料につきましては、9回にわたるこれまでの懇話会での審議内容や委員の皆様から個別に頂いたご意見等を取りまとめる形で、懇話会からの「答申案」として提示させていただいております。

本日の協議を踏まえ、再度修正を加えまして、後日、懇話会による「答申」として教育長に提出していただくこととなりますので、よろしく願いいたします。

また、表紙をめくっていただいたところに、「はじめに」ということで、明石会長からの言葉を載せさせていただいておりますが、これにつきましても明石会長にご指導いただき修正等を加えてまいりたいと考えております。

それでは、最後の懇話会ということで、前回の資料との変更点を中心に、全体をとおしでご説明を申し上げます。

まず第1章の「総論」ですが、これまでに何度も目を通していただいているところかと思いますが、1～4ページにわたって、「計画策定の背景と趣旨」・「計画の位置づけ」・「計画の対象範囲と性格」・「計画期間」、さらには「計画策定にあたっての7つの視点」及び「学校・家庭・地域・行政の役割」について整理をしておりますのでご確認ください。

特に、策定にあたっての視点は、計画策定の基本的な考え方として、その根幹をなすものであり、「市民の信頼と期待」、「新しい時代への対応」など、大変貴重な視点をご提示いただくことができました。

なお、この第1章に関しましては、前回の懇話会との大きな変更点はございません。

次に、第2章「計画の目標・施策展開の方向」について、5ページから13ページにわたり、「計画の体系」・「千葉市の目指すべき子どもの姿」・「教育目標」・「施策展開の方向」を整理するとともに、7ページには「学校・家庭・地域・行政の役割と施策展開の方向」について図で示してございます。

特に「千葉市の目指すべき子どもの姿」については、懇話会の中で多くの議論をいただき「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」をご提言いただきました。

教育目標につきましても「シュートを打つ力」など、はぐくむべき具体的な力についてのご提案等をもとに、「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ」との提言をいただくことができました。

なお、13ページには、「5 施策体系」として計画の全体像について再度整理をさせていただいております。

この第2章に関しましては、前回の懇話会でのご意見等を踏まえ、いくつか修正をした箇所がございます。

まず、6ページをご覧ください。上から3行目に「全国学力・学習状況調査」に関する記述を加えるとともに、9ページの上から2～5行目に「不登校児童生徒の学校復帰に向けた取り組み」を、さらに、11ページの上段に「幼児教育と小・中学校教育の連続性の重視」といった内容を加えております。

いずれも、前回の懇話会で出されたご意見等をもとに修正したものでございます。

なお、事務局の方で再度内容を見直し、表現等を修正させていただいた部分もいくつかございます。

たとえば、12ページの「施策展開の方向8」の「現状と課題」について、ここは網掛けをしておりますが、課題がより明確になるよう、内容についての記述を変更させていただいております。

続いて13ページの「5 施策体系」についてですが、前回の懇話会において、54の具体施策のうち、「千葉市の先進的な取り組み」の観点から、いくつか重点的に取り組むべき具体施策を示していただきました。

これを受けまして、明石会長にご相談の上、一番右にございますように「重点的取り組みの視点」として、4つの視点に整理するとともに、54の具体施策のうち、網掛けをし

た22の具体施策について「特に重点的に取り組む施策」として提示いたしました。

どの具体施策も重要であり、何を網掛けとするか大変難しい選択であり、異論も多々ございましょうが、一方で焦点化を図る必要もあることから、ここでは「特に」ということで22に絞らせていただきました。

今回、網掛けを取らせていただいた具体施策につきましても、「それぞれ重要な施策であり、粛々と取り組んでいく」との考え方で整理させていただいております。

それでは、それぞれの視点について、また、各視点に沿って特に重点的に取り組む施策として示した内容につきましてご説明いたします。

視点の一つ目としては、「小学校英語活動」や「農山村留学」、「学校図書館指導員の配置」、「不登校児童生徒の学校復帰に向けた支援」など、「千葉市が全国に発信する先進的な取り組みの推進」を挙げさせていただきました。

この視点1をもとに、特に重点的に取り組むべき施策として、上から「国語力の向上」・「各種体験学習の推進」・「国際人を育てる国際理解教育の推進」・「学校復帰への支援」の4つの具体施策を位置付けております。

次に視点2として、「千葉市の特色や子どもの実態等を踏まえた取り組みの推進」を挙げ、千葉市の特色を踏まえた取り組みの例として、「科学館や図書館など充実したインフラの活用」や「学校の小規模校化・大規模化による教育環境の不均衡の是正」、「幼児教育の重要性と幼・保・小連携教育や小・中連携教育の成果を生かした取り組み」、「小・中・高校、それぞれの発達段階を踏まえた理数教育・国際理解教育の推進」、「外国人児童生徒の増加への対応」を提示しております。

また、子どもの実態等を踏まえた取り組みとして、「意識調査に見られる子どもや教職員の意識に対応した取り組みの推進」や「現在の比較的良好な学力・体力の今後一層の向上」などを例示しております。

この中の、意識調査に見られる子どもの実態とは、年齢が進むにつれ規範意識に低下傾向が見られることや、「将来自分がなりたいたいと思う人」について明確なビジョンを描ききれない様子が見られること、などを意味しております。

また、教職員の意識については、教職経験20年以上30年未満の、いわゆるベテランの層が日々の業務に多くの不安等を抱えている現状があり、こうした教職員の实態を踏まえた研修の充実が課題となっていること等を示したものです。

視点2に基づき、千葉市学力状況調査の実施や学習支援員・少人数指導教員の配置などの「わかる授業」に向けた取り組みをはじめ、「理数教育の充実」、「科学館・図書館・博物館等の活用」など13の具体施策を「特に重点的に取り組む施策」として位置付けております。

次に、視点3として、「学校施設等の安全対策」や「情報化の進展への的確な対応」、「特別支援教育の充実」など、「社会的な要請の高い今日的な課題への対応」を挙げさせていただきました。

この視点に基づき、「特に重点的に取り組む施策」として、「情報教育の充実・推進」など、三つの具体施策を位置付けております。

続いて視点4ですが、今回の計画案の中心的課題の一つでもあります「学校・家庭・地域・行政、4者の連携」といった観点から「教職員が子どもに向き合える環境づくり」などを例示するとともに、特に重点的に取り組む施策として、「地域人材を活用した学校支援」など、三つの具体施策を位置付けております。

ここにお示した4つの視点は、今後、計画についての考え方や内容等について、様々な場で発信していく際にも、大変重要なポイントとなってくるものと考えます。ご意見等ございましたら、ぜひお聞かせいただければと思います。

続いて第3章「アクションプラン」についてですが、施策体系でお示した「特に重点的に取り組む具体施策」にかかるものについて、網掛けをするとともに、前回との変更点については斜体文字等で示しております。

はじめに、14ページから20ページの「施策展開の方向1 わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身に付けさせる」では、「千葉市版年間指導計画の作成」や「少人数指導教員や学習支援員の配置」、「学習情報センターの整備充実」、「科学館を活用した授業の展開」など27のアクションプランを位置付け、15ページの「学校の勉強が好きだ」と肯定的に回答する児童生徒の割合など、17の「成果指標」を設定しております。

この中では、15ページにある「3 学力状況調査の実施と活用」について、「全国学力・学習状況調査」の記述を加えたほか、成果指標の数字を若干見直したところがございます。

それ以外については、前回の内容との変更点はございません。

続いて、21ページから29ページの「施策展開の方向2 社会性を備えた豊かな心をはぐくむ」では、「農山村留学の実施」や「人権教育の推進」、「情報モラル教育の推進」など35のアクションプランを位置付け、22ページの「係活動等責任を持って行うと回答する児童生徒の割合」など19の「成果指標」を設定しております。

ここでも、いくつかの「成果指標」について、若干数値の見直しをしておりますが、それ以外の変更点はございません。

「施策展開の方向3 体力を高め、健康な体をはぐくむ」では、30ページから32ページに、「子どもたちの遊び場の確保」や「地域の専門医との連携による子どもの健康づくり」など12のアクションプランと5つの「成果指標」を設定しております。

この「施策展開の方向3」につきましては、前回との変更点はございません。

次に、33ページから38ページの「施策展開の方向4 家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす」では、「家庭教育資料の配布」や「学校セーフティウォッチの推進」など22のアクションプランと10の「成果指標」を位置付けております。

この「施策展開の方向4」に関しましても、変更点はございません。

続いて39ページから45ページの「施策展開の方向5 子どもの学びを支える教育環境を整える」では、「校舎・屋内運動場等の耐震補強」や「小中連携・一貫教育の推進」、「幼児教育支援体制の整備」など、28のアクションプランと11の「成果指標」を位置付けております。

この「施策展開の方向5」に関する変更点ですが、44ページをご覧ください。

幼児教育の充実に関しまして、119に再掲として「幼保小連携教育の推進」を位置づけるとともに、45ページに122として「幼児教育を受ける機会の充実」として「認定こども園」の普及促進に関する事業を新たに位置づけております。

他の変更点としましては、「成果指標」の数値について一部見直しをさせていただいております。いずれも斜体文字等で示しておりますのでご確認ください。

次に、「施策展開の方向6 意欲と指導力のある教職員を確保・育成するとともに、教職員が職務に専念できる体制を整備する」については、46ページから51ページにありますように、「教職インターンシップの推進」や「NPOちば教育夢工房による支援の推

進」、「校務のIT化の推進」、「教職員の勤務負担軽減」など、21のアクションプランと14の「成果指標」を位置付けております。

前回との変更点ですが、47ページをご覧ください。今回新たに130として「千葉市教育の中核を担う教職員の育成」を位置付けております。

これは、「現場研究員による研究」や「内地留学」など、それぞれの研修が千葉市の将来を担う教職員の育成を図っていくことを目的としているとの考え方から、前回まで一つの事業として示していたものを統合する形で位置づけたものです。

また、50ページの143「学校問題解決支援体制の整備」ですが、前回までは「教育問題相談体制の整備」となっていたものを、事業内容がより明確になるよう事業名を変更するとともに、事業概要についても具体的な内容を加えるなど、内容・表記ともに一歩踏み込んだ形で修正をさせていただいております。

他には、斜体文字で示しましたように「成果指標」を一部見直したり、指標が入っていなかったところに数値を入れ込んだりするなど、いくつか修正させていただいた箇所がございますのでご確認ください。

続いて52ページから59ページの「施策展開の方向7」ですが、「特別支援教育指導員の配置」や「eラーニングの実施」、「中学校夜間学級の設置検討」など28のアクションプランと16の「成果指標」を設定しております。

ここでは、57ページの「②国際交流の推進」について、前回まで成果指標が空欄となっていたところに数値を入れさせていただきましたが、それ以外の変更点等はございません。

最後に、「施策展開の方向8」ですが、60から62ページに「学校評議員制度の充実」や「学校支援システムの整備」、「仮称 夢・思いやり・チャレンジ基金の設置」など、八つのアクションプランと四つの「成果指標」を位置付けております。

前回、60ページの「成果指標」が空欄になっておりましたが、そこに成果指標を入れさせていただいた以外、「施策展開の方向8」に関する変更点はございません。

以上、大変雑駁ですが今回の懇話会が最終ということで、全体を通しての説明をさせていただきました。

委員の皆様方には、これまで大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。計

画案の形が一応できてまいりましたが、まだまだ皆様方のお考えを反映できていない面も多々あろうかと思えます。

今後とも、皆様方のご意見をもとに、よりよい計画にしていきたいと思いますので、この後の協議におきましても、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

●明石会長

各委員のご意見をいただきながら、事務局で精査して最終的な計画案ができてまいりました。これについて、何かご意見はございますか。

もし、この後ご意見等がありましたら、メールや手紙を出してください。私と事務局で相談させていただきまして、完成版を作成したいと思います。

教育長への答申についてですが、市長部局との連携もありますので、市長部局と連絡調整もしなければならないと考えております。それが済んだ段階で教育長へ答申をする予定です。

その他について、事務局より説明してください。

●山崎課長

企画課長の山崎でございます。

この計画案について、今すぐ、ご意見を出していただくというのも難しいかもしれませんが。もし、ご意見がある場合は、FAXやメール等でお寄せいただきたいと思います。いただいたご意見について、明石会長と調整をしていきたいと考えています。

その後、市長部局と調整し、行政側として計画について検討させていただきたいと思えます。それを行った後に、会長から教育委員会への答申していただく、ということで考えています。日程ですが、11月下旬くらいで考えております。決まり次第、連絡させていただきます。

●明石会長

続きまして、議事（3）その他 について、事務局の方で何かございますか。

●三橋主査

本日の議事録の承認と公開の件についてでございます。

本懇話会の会議の議事録の承認は、次回の会議で行っていましたが、今回が最終となりますので、本日の議事録につきましては、各委員に内容を確認していただいた上で、正副会長さんのご承認をいただき、それを持ちまして、公開の手続きを取らせていただきたいと思います。

つきましては、できるだけ早い時期に、事務局から委員の皆様方に議事録の案を郵送させていただきますので、各委員におかれましては、内容をご確認の上、修正点等がございましたら、FAXなどにより事務局にご報告いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●明石会長

本日の議事録の承認と公開につきましては、ただ今のご説明のとおり進めていきたいと思っておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

それでは、最後に、これまで熱心に審議いただきました各委員の皆様より、一言ずつ、ご感想をいただき、懇話会の締めとさせていただきます。

席次順に、相川委員からお願いいたします。

●相川委員

私は、保護者の立場で10回参加させていただきました。子どもたちの規範意識が薄れていることを常々考えておりまして、教育は重要な問題なので注意していきたいと思っています。充実した計画案になっており、これが実施されれば、千葉市の子どもたちは更に立派になるのではないかと思います。

各政令市の大会で関東ブロックの協議会に行きましたが、そこで「千葉市の教育委員会は協力的だな」という印象を持ちました。事務局長と話をする、「少し噛み合わない」というところもあり、「千葉市はどうですか」と聞かれた経緯があります。私は、「非常に協力してもらっています」と回答しました。この計画の内容を見ても、そのような結果が出ていると思います。

これからもよろしくお願いいたします。

●秋元委員

教育委員会の皆様が、本当に親身になって千葉市の教育のことを考えてくれているのだなと出席させていただいて知ることができました。

私は千葉市で生まれ育っていますが、学校を出てしまうと、なかなか教育に触れること

ができません。私はボランティア活動をしています。これからは、千葉市の教育委員会は本当に真剣に子どもたちのことを考えているのだから、私達も、もっとよりよい、住みやすい、充実した街になるよう協力したいと思っています。ありがとうございました。

●安達委員

私も、教育委員会の皆さんが非常に熱心に取り組んでくれたことに感心しました。

私は、地域と学校を見ておりまして、非常に良い家庭もあれば、問題のある家庭もあり、学校と地域では抱えきれないものがある、と非常に心配しています。そういう意味では、提案を盛り込んでいただきまして、家庭で失われかけているもの、日本が失いかけているもの、つまりモラルが、一つのラインに沿って進められていけばいいなと思っています。

荒っぽいことを申しましたが、その辺を期待しています。

●伊藤委員

感想ということで、いろいろ申し上げたいことはありますが、何点か絞ってお話をさせていただきます。

まず、一点目は、実態把握がとてもきめ細くなされていて、その資料を読ませていただき、その土台をもとに、この場でお話をするのができたことを非常に有意義だったと思います。

もう一つは、現場の立場等を真正面から見て子どもに向きあう時間というものを考え、行政と一体となって子供のための教育活動に向かっているということ、この場で強く感じられたということです。それが、この計画の中に反映されていることを嬉しく思います。

最後にもう一点、地方は千葉市を常に見ています。千葉市が先端に立ち、「全国に発信を」という状況であろうかと思いますが、それに対応した教育活動をしているように思いますので、誇りを持って今後も進めていただきたいです。

そういう中で、「わかる授業づくり」ということで、少人数学習指導教員の配置、学習支援員の配置など、子どものために、いろいろな角度から、具体的な活動を位置付けて実施されていますが、その位置付けが、やや広がりすぎているように思います。たくさん実施されていますが、幼稚園を含めて、千葉市全体の小学校、中学校の中で部分的に活動がなされていて、なかなか千葉市全体としての成果を出すのが難しいということもあるのではないのでしょうか。

例えば、学習支援員の配置についても、千葉市全体の成果は出にくい。限られた予算の中で、あらゆる角度から取り組んでいることはよくわかりますが、千葉市全体の成果が出るためには、その中から絞り込んで、一つ一つ抽出していけば、全校配置の図書館指導員

の成果が出ているように、成果が出て、更に発展するのではないかと思いました。

いろいろお世話になりました。ありがとうございました。

●小川委員

地域の立場として、今回参加をさせていただきました。ありがとうございました。

学校・家庭・地域、当時は行政が入っておりませんでした。3者連携ということに長年携わってまいりました。その時点でも、外からですが、「学校の先生方が非常に大変だな。時代に即した教育の在り方を常々考えていらっしゃるのだな」ということを感じておりました。

今回のこのような計画が、今後どのような形で各現場の先生方に周知されるのかということが、私は外にいて分からないのでお聞きしたい部分でございます。

今後、地域としては、学校あるいは家庭に協力を求めて、いろいろな事業をやらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

●神田委員

私は、千葉市の学校保健会の代表で参加させていただきました。学校保健会は、千葉市医師会、歯科医師会、薬剤師会など10部会の先生方が、子供たちの健康のために、いろいろ協議しているところです。

私たちは、保健体育課と非常に密接な関係でございまして、保健体育課に協力して推進していくわけでございますが、子供たちの健康というものは、非常にいろんな問題が山積しております。体力の向上の問題だけでなく、メンタル面の問題も数多くありますし、最近では、運動器の問題も整形外科の先生を中心に取り上げられております。体力の低下の問題が取り上げられている中で、この運動器の問題も注目して見ていかなくてはならないと思っております。

保健体育課の先生方のご尽力で、体力づくりの推進の問題、健康教育の推進など、この体系が作られていることを非常に喜ばしく思っております。ですから、私たちもこれをバックアップして、ますます具現化していきたいと思っております。

今後ともよろしくお願いします。

●貞広委員

まず、一委員として、そして一千葉市民として、このような素晴らしい答申案を作成していただいたことにお礼を申し上げたいと思います。

一般的に、行政が作成するこうした資料というものは、リアリティとパンチに欠けると

言われますが、これは非常にリアリティとパンチのある答申案になっていると思います

その理由は2点ございまして、1点は行政の役割というものを柱のひとつとして大きく取り上げている点です。もう一点は、施策の選択と集中が行われている点です。未来に向けた千葉市の学校教育のために、これらの施策が実現できるように、この答申を元に予算を確保していただきたいと思います。

●清水委員

相談活動についての成果指標があげられており、環境整備とか訪問相談とか研修の充実を図るということはよくわかります。

しかし、成果指標で、相談活動の充実度が増していくとありますが、そんなに計算どおりにはいかないのが現実だと思います。特に、発達障害は大変なことであり、人を増やせばよいかというと、そういうわけではなく、簡単にはいかないものです。

そういう意味で、成果指標にとらわれた相談活動になっては、本末転倒になるということ懸念しています。前回出席できなくて、文書で出させていただいたのですが、それが少し気になるところです。

ありがとうございました。

●杉森委員

私は千葉市幼稚園協会から参加させていただきました。

千葉市には公立幼稚園はなく、私立幼稚園が幼児教育を担っている現状でございます。この計画の「幼児教育の充実」というところには、もちろん行政側が目指す方向を示しているというところもありますが、「私たち幼稚園の側も頑張りますよ」という気持ちを込められたのではないかと感じております。

私の幼稚園では、9月から来年度の入園を希望者するお母さん方が見学に来ます。今回は一般枠が20名程度のところに150名来られました。お母さん方は必死なのです。幼稚園から教育が始まるということで、必死にいろんな話を聞こう、幼稚園の様子を見ようとしています。自分で作った幼稚園ですから、全員に私が説明して、「良かったら来てください」と言っています。お母さん方が、真剣に幼児教育を考えていることや、幼稚園・小学校・中学校・高等学校とステップアップしていくのだ、という現実をご理解いただきたいと思います。

「幼稚園から小学校に入る際につまずきがないように」、「ステップアップした際の段差が低くなるように」、それを考えていけば、一人でも傷つく子どもたちを救うことができると思います。そして、それを私たちが担っていると思っています。最初のスタートの大

切さを先生方にもご理解をいただき、私たちもその期待に応えられるようにしていきたいと思っています。

見学にいらっしゃったお母さんの中には、23もの幼稚園を見学した中から1つの幼稚園を選ぶという方もいました。それくらい真剣なのです。私は、その気持ちに応えたいと思っています。ありがとうございました。

●田辺委員

私は本年度から高等学校の立場で参加させていただきました。

改めて答申案も見させていただき、本当に根源的な課題が全て網羅されている感じがいたしました。学校経営の立場から言えば、「どういうところに力点を置こうか」ということが、これを見れば分かると思います。ただ、実際に学校運営に携わっている人間からすれば、「では、これらをどうやって具現化するのか」というところが難しいと思います。ひとつの方法として、63ページにあるようにPDCAサイクルをうまく活用していくというのがあるのかなという感想を持ちました。

本当に良い答申ができ、私自身も勉強させていただきました。

ありがとうございました。

●高橋委員

プロスポーツの立場で参加させていただきましたが、あまりお役に立てず申し訳なく思っております。

すごく良くできた答申案で、失礼ですが、千葉市の本気度というのを感じています。

ただ、これをいかに推進していくかということが大切だと思います。私たちも、年の初めに「こういうことを1年やっていきます」と宣言しても、なかなかできません。ましてや、これだけあると、できないことがたくさんあると思います。「今年はこちらまで、来年はこちらまで」というように、少しずつ実現させることが大切かなと思います。

この案の中に、担当課が公園建設課というのが出てきています。子供の教育は、教育委員会だけでやるものではないと思います。地域全体でやっていかなければならないものだと思います。

私たちも「子供を大切に」と言っていますが、これは何故かということ、子供たちが次のジェフを担っていく世代であるからです。だから、「子供たちにいろいろ教えていこう」としているのです。

千葉市を担う子どもたちを育てるという意味では、教育委員会だけの問題ではなく、地域ももちろんですが、千葉市全体が考えていかなければならないことだと思います。私た

ちができることは、「地域の人材の活用」というのが計画案の中にありますが、健康やスポーツなど、協力できることをどんどん言っていただいて、活用していただくことだと思います。

ジェフでは、毎年、中央区のPTAの皆さんやロータリークラブの方々と、子どもたちを集めてサッカー教室をやっており、今年は500人くらい集まりました。いつも最後に、「5対5のミニゲームをしましょう」と、たくさんの小さいコートをグラウンドに作って、子供たちには、「自分たちで5人組を作って、対戦相手も自分たちで見つけなさい。勝ったら、違う相手を見つけなさい」ということを言っています。

「自分たちで考えて仲間を作りなさい。自分たちで考えて相手も見つけなさい」とやっているのですが、今年は、仲間は作れたけど、最後まで試合ができずに終わったというのが2チームありました。このようなことは、去年はありませんでした。

これは大変なことだ、と思いました。子供たちが自分で仲間を探せない、というのはどうということだろう。皆さんは、現場にいらっしゃるので、こういうことを感じているかもしれませんが、間違いなく危機がやってきていると感じました。そのうち、サッカーの試合で、「コーチ、シュート打っていいの」と聞く子どもが出てくるのではないかとそのような心配をしています。

そのようなことがないように、私たちも協力をしていきたい、地域の方たちにも協力いただいて、みんなで子どもたちを育てていけたらいいな、と考えています。お役に立てることがあれば言っていただきたいと思います。

●鶴岡委員

私ごときが言うことではないかと思いますが、あえて言わせていただければ、千葉市は全国一の教育を行っていると思っています。それは何故かといいますと、行政と管理職と我々教職員が子どもを中心に置いて、「どうすれば、この子たちが育つのか」と、いつも考えている都市だと思うからです。そして、それを地域の方々が温かく見守ってくださっています。そういった都市だと思うからです。お陰で、子どもたちがすくすく育っています。学力云々という話がありましたが、そういったことも多少関係しているのかと思います。

私は、現場職員の代表で参加させていただきました。本当に、千葉市の先生方は真面目で真剣です。時々、新聞に載るようなことがあります、ごく一部です。100パーセント近い方々が一生懸命やっています。

181ある事業の中で、確認しておきたいのは「143 学校問題解決支援体制の整備」です。今、学校現場で一番悲鳴を上げているのは、このことです。教員になって、頑張ろ

うという新採の方々に、1年も経たぬ間に辞めてしまうことがあります。そして、今は、そういう方だけでなく、管理職の方々もどんどん休暇をとるようになってしまっています。全てがモンスターペアレントのせいではありませんが、そういった問題で、現場が悲鳴を上げています。こういった学校をどうにかしてバックアップしていただきたい。個人的には大変期待したい事業です。

●戸村委員

一般市民からの公募委員として参加させていただいて、勝手なことや無理なことを申し上げましたが、教育委員会の方に上手に計画書に取り入れていただき、特に、教育長からは全国学力テストの位置付けまでお話していただき、大変感謝しております。この懇話会に参加させていただいてよかったなと思います。

無理を申し上げたことのひとつに、「計量的な目標を是非入れてほしい」ということがあります。いくつかの項目に成果指標を入れていただきました。この指標の妥当性については、私は素人なので全く分かりませんが、計画年度には、是非、これを達成して、千葉の子供たちが、目標とするような姿に少しでも近づけるよう、成果を出していただけたらと思います。

ひとつ付け加えたいのは、国際化ということで、先生方の「海外派遣研修の実施」とありますが、事業概要には、「視察」とあります。「世界に通用するような、世の中に役に立つような大人になりたいな」というような希望を、子供たちが持てるように、視察をするだけでなく、海外研修をして、先生方から視野を広げる機会をもう少し作っていただけたらな、と感じました。

●行木委員

360度の角度から、それぞれの課題を洗い出し、それに対応したアクションプランを作ってください、大変素晴らしい案ができたと思っています。

ただ、ここからが、私たちのスタートであって、これからこれをどう実施していくか、そこに意義があると感じておりまして、4者連携の中で、我々委員も含めて、取り組んでいかなければいけないと思っています。

51ページに「144 目標申告制度の充実と業績評価の検討及び試行」とあります。東京23区が学区の自由化を取り入れて、学校に競争原理を持ってきたわけですが、今、ここにきて、その弊害が出ております。子どもの入学率の格差が広がってきたのです。地域に100人子どもがいるとしたら、50人しか地域の学校に行かず、よその地域から50人入ってくる。全体の入学率は100だけれども、学区からの入学は50です。そんな

ると、地域との連携が非常に希薄になります。そういうことで、某区では、来年度から元に戻すと、先日新聞で報道されておりました。

業績評価とありますが、学校というものは、組織でそれぞれが連携しながら、子供の教育をしていくのが大切な職場です。教員の中にも能力の格差があり、低い先生に対してみんなで支援していく。そういうことも、学校というところは大事にしていかなければ、学校全体の信頼が得られません。それは子供の学力にも関わってきます。

各政令市が業績評価を取り入れて実施していますが、成果を見定めた上で、本市では取り組んでいただきたいと思います。

ありがとうございました。

●宮浦委員

これだけの計画案を作っていただきましたこと感謝いたします。教育委員会の方々と明石先生も相当なご苦勞をされたと思います。ありがとうございました。

7ページに「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」とありますが、私には中学3年生の息子がいて、ちょうど受験の時期に入っているのですが、夢を持っているのかが全然分からないのです。その学校にどういう魅力があるから、その学校に行きたいというのではなくて、自分の点数と学校を照らし合わせて学校を選んでいて、ころころ志望校が変わっています。

千葉高校の先生からお話を伺いまして、それぞれの学校に魅力があると気付きました。自分の点数で高校を選ぶのではなく、そこの学校で何をしたいか、大学に行く時にも、成績の良い学校に入りたいとか、そういうことではなく、自分が何をしたいかということを考えて、小さいころから夢を持つ子どもを育てていただければいいなと思っています。

私は、体育協会の理事として参加させていただいているのですが、2年後に千葉国体があり、私はフェンシング協会の理事です。フェンシングの選手がオリンピックで銀メダルを取りました。フェンシングという競技を、子どもたちは見たことはなかったと思います。太田君がメダルを取ったことによって、フェンシングがテレビで取り上げられるようになり、子どもたちが関心を持って、フェンシングをやりたいと思っているかと思います。

体育協会には、ほとんどの競技の団体があると思います。千葉でせつかく国体が開かれるので、この機会に、子どもたちがスポーツを見て、身近に感じてほしいと思います。そして、是非やりたいと思ったら、体育協会に相談していただければ、指導者の派遣もできると思います。中学校で部活を作りたいと思ったら、ご相談ください。

千葉市は、千葉県の中心ですから、「千葉市に行けばどんなスポーツでもできる」と子どもたちが思えるようにしていただけたらいいと思います。

●高津委員

過去の議論の中で、各方面からいろいろなご意見を伺いました。学校現場としましては、幅広く、心強い応援者がたくさんいるのだな、と率直な意見を聴かせていただきました。

私は、「本当に千葉市で学んでよかった」という子どもたちを育てたいと思っています。それは、学校だけでできることではありませんが、直接子どもたちと接する学校が、それを目指して、一番しっかりやっていかなければいけないと思っています。たくさんいる応援者と一緒に子どもたちの教育にあたっていきたいと思います。

私は、今度の3月までですが、素晴らしい計画ができたので、27年まで学校現場でやっていたいなと思っています。私は、体育協会に関わっておりましたし、今度は、逆の市民としての立場から学校を応援したいと思っています。そういう意味では、応援の仕方のマニュアルのようなものができたと思います。

子どもたちが千葉市で学んで良かったと思うように、学校現場にたくさん入ってきた若い先生方が「今の子どもたちを教えられて良かった、千葉市の教育に携われて良かった」と思えるような環境を作っていけたらいいなと思っています。

1年という短い間でしたが、私自身も参考になりました。本当にありがとうございました。

●明石会長

私も一言だけ申し上げたいと思います。

こういう計画を策定する場合、計画倒れになることが一番怖いです。委員の皆様エネルギーと時間をいただいて、どうすれば機能するか考えてきました。選択して集中することをはっきりさせていくことが大切です。そのようにして、3年、5年間のロードマップを作らせていただきました。

次に、市民と先生方にどうしたら分かっていたいただけるか。数値目標も大事ですが、例えば、図書館や文集とか読書とかいったような事業に、「千葉市から芥川賞を取る作家が出る」というような、分かりやすい目標があればいいかと思っています。「ジェフに入ってレギュラーになる子どもを育成する」とか、分かりやすいものが必要かと思っています。清水委員がおっしゃったように、数字も大事ですが、数時の裏の読みを早くする。数字に縛られてもいけません。数字ではできない部分を、どういう形で助けをもらうかということがあります。

計画には、部局を越えて、各項目で担当課を入れてもらいました。当事者性が出ると役所は動きますので、当事者性が出るように入れていただきました。

最後、「仮称 夢・思いやり・チャレンジ基金」。税金も使わせていただきますが、財政難ですので、別のファンドを用意して、学校教育を支援できる仕組みづくりを考えました。各委員のご援助をいただき、教育委員会の中でも、企画課に額と脳みそに汗をかいて頑張っていました。ありがとうございました。

さて、少し時間をいただきまして、「千葉市学校教育推進計画」と長い名称に、サブタイトルを付けたいと考えています。遠山文部科学大臣のとき7つの重点戦略の「レインボープラン」というサブタイトルを使っていましたが、そのような感じで、千葉市らしい、愛称というか短い言葉がないでしょうか。風太教育プランとか、千葉市の花の大賀ハスの名前を使うとか、千葉にこだわって、「あれだ、あれだ」とみんなが分かるような名前を付けたいと思います。この計画を、誰が読んで、誰を啓発するかと考えたとき、小学校に配っても忙しさの中では、「ほいっ」と横に置かれかねないかと思っています。何か思いつきでいいので、名称、愛称がありませんか。

秋元委員、千葉で生まれ千葉で育って何かアイディアはありませんか。

●秋元委員

内容が硬いので難しいですね。

●明石会長

千葉市民が「教育委員会が何か計画を作ったらしいよ」「ああ、あれね」と言ってくれるような感じです。

教育だよりとか、市政だよりなど、たくさんの広報紙が届きますよね。市民はたくさん来すぎて分からないです。

高橋委員何かありませんか。

●高橋委員

「こども元気プラン」とか。子供に元気を持ってもらうような。

●明石会長

ひとつの案ですね「ちばし元気プラン」

「ちばっこ元気プラン」というのもいいですね。

思いつきでいいので、もし何かありましたらメール等でお知らせください。

委員を離れて、どうすればこういう行政の資料をたくさんの人に読んでもらえるか、考えていただければいいと思います。

名前と同時に行政でリーフレットを作る予定がありますが、色を変えるとか工夫をしていただければと思います。

皆様のご協力をいただき、かなりしっかりしたものができてまいりました。ありがとうございました。そこで、岩切学校教育部長よりお礼の言葉がございます。

●岩切学校教育部長

正式のお礼のご挨拶は教育総務部長からありますが、この計画は学校教育推進計画ですので、私からも一言、委員の皆様にお礼申し上げます。

今回の策定にあたりまして、明石会長を中心に委員の皆様方、そして、区民説明会を実施しまして、それぞれの区の市民の方々から、いろいろなご意見、ご指摘、ご要望をいただきました。ここにいる教育委員会の職員にとっても、また、私にとりまして、大変新鮮なご意見がたくさんございまして、はっとさせられることもたくさんございました。本当に印象深く感じております。また、企画課が一生懸命に取り組み、委員の皆様のご意見が随所に盛り込まれたなと感じております。

千葉市の教育について申し上げます、いろいろあるわけですが、本市は、教育推進にあたりまして、大変いい素地がございます。

例えば、学校セーフティウォッチ事業というものがございまして、子どもたちの安全の確保が必要とされている中、本市の児童・生徒75,000人を守ろうと、16,000人を超えるセーフティウォッチャーの方々が見守り活動に参加してくださっています。今、17,000人を目指そうと言ってやっておりますが、一口に16,000と言っても、これは大変な数でございます。何人かの子供に1人の割合でウォッチャーさんがついていくという状況でして、他市では、なかなかこういう状況にならないほどのご支援をいただいております。

こういう状況でございますので、学校、教育委員会は、もっともっと頑張って、更に良い教育ができる都市にできると考えております。是非、今回の計画をもとに、教育委員会一丸となって、全力で頑張りたいと考えております。

厳しい財政状況でございますが、なんとか知恵を絞って、予算を獲得して、この計画が推進できるように頑張りたいと思いますので、今後ともご支援をお願いいたします。

長い期間に渡りまして、本当にありがとうございました。

●明石会長

ありがとうございました。

以上で議事を終了いたします。進行を事務局にお返しします。

●小川課長補佐

明石会長、ありがとうございました。

最後に、委員の皆様には教育総務部長より一言お礼の言葉を申し上げます。

●武田教育総務部長

委員の皆様方には、大変お忙しい中、懇話会委員をお引き受けいただき、昨年度から数えまして10回にわたり、熱心なご審議をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

お陰様で、千葉市民の意識調査や6回に渡る区民説明会で頂戴したご意見等をふまえ、千葉市の実態に即した素晴らしい計画案をご提言いただけることとなりました。

答申後には、ご提言いただきましたことを確実にやっていけるよう、先程、委員の皆様から、「どのように実現していくのか」、「これを武器に予算確保に努めて欲しい」といったような熱い期待と申しますか、ご意見がございました。こういったことを厳しく受け止めて、厳しい財政状況の中、努力してまいりたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

誠に簡単ではございますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

●小川課長補佐

以上で審議がすべて終わりました。千葉市学校教育推進計画懇話会を閉会といたします。

それでは、各委員の皆様、気を付けてお帰りください。お疲れ様でございました。